

人文学類

学生の確保 (人)	年次		定員	志願者	受験者	合格者	入学者	
	1年次		120 ※ — (120)	596 ※ — (567)	596 ※ — (567)	141 ※ — (143)	126 ※ — (135)	
	編入学・再入学		— ※ — (—)	— ※ — (—)	— ※ — (—)	— ※ — (—)	— ※ — (—)	
学生の進路 (人)	卒業生	就職者	就職者の内訳			研修医	進学者	その他
			企業	教員	公務員			
	123 ※ — (117)	48 ※ — (60)	30 ※ — (40)	9 ※ — (9)	9 ※ — (11)	— ※ — (—)	34 ※ — (25)	41 ※ — (32)

・ () は前年度の数値を、※は外国人留学生を内数で示す。

1 人文学類の活動

[教育]

人文学類の4主専攻では、それぞれの主専攻で教育の充実に努めてきた。平成15年度はAC入試を導入して4年目になるが、面接に十分な時間をかけて合格させた学生の今後の学習に期待したい。また、優秀な学生確保の方策の一環として、推薦入試とAC入試の定員の変更を試みた。新入生に対するオリエンテーションは、平成15年度も学類長、オリエンテーション委員長、教育課程委員長、学生担当教官、クラス担任教官などが学生及び院生の協力も得て指導に当たった。また在校生の履修指導を強化すべく、年度当初に2年生以上の在校生に対してもオリエンテーションを実施するとともに、年間を通してクラス担任教官と連携して履修指導を強化した。教育課程ならびに授業時間割等についてはカリキュラム委員会が中心になって点検・実施を推進している。また教育課程の編成に学生の希望を組み入れようとの配慮から、クラス連絡会においてカリキュラム編成上の諸問題を話し合っている。また、学生の情報処理活動の一層の充実に目指して平成11年10月に発足した「人社サテライト」の学生の利用状況は、きわめて活発になってきている。平成16年度後半の開室を目指して目下第二端末室設置の工事が進行中であり、この環境整備への期待が高まっている。

[学生生活]

学生生活に関する指導は、学類長と学生生活審議会委員、学生担当教官、クラス担任教官とが密接な連絡をとりつつ、また必要な事項は随時学類教員会議等で協議しながら進めてきた。平成15年度も年2回(7月と11月)クラス連絡会を開催してカリキュラムや学生生活やオリエンテーションの問題等について協議し、当面する諸問題の解決に努めた。クラス連絡会には学担教官、クラス担任教官、カリキュラム委員など多数出席した。なお、平成15年度も、専攻コースクラス代表者懇談会を組織して学生組織の活性化を図った。

交通安全、学生生活上の指導については引き続き指導を徹底していかねばならない。卒業生の就職状況はなかなか厳しく、平成14年度と同じように卒業を1年延期して就職活動に備える学生もみられた。

2 教員の教育業績評価の状況

教育の課題、方法、教育業績の評価などは多様な価値基準によって判断せざるを得ないものがある。学生の授業評価は学類として統一的基準を設けず、個々の教官の教育的配慮と創意工夫に委ねているが、今後FDを積極的に推進し、学生による授業評価を適宜実施していく必要があるだろう。

3 自己評価と課題

(1) 人文学類の自己評価

人文学類の運営は、各種委員会やクラス担任教官、学生担当教官等の密接な連絡のもとに、学類教員会議を中心にして全教官の一致した協力の下に円滑に運営されている。人文学類の授業は少人数の小規模授業が多く、教官と学生との相互交流は比較的緊密であり、きめこまかな指導がなされていると評価できる。ただし開設授業の内容と教育方法の改善・充実に向けてなお努力が求められる。

(2) 課題と改善の方向

教育に関して、学期制が2学期制実施の方向になれば授業の学期集中の導入が重要な課題となる。また、総合科目をはじめとする教養教育の充実と大学院進学を促す専門教育の充実の問題があり、同時にこの相互の関係を教育課程の中でいかに実現するかが今後の課題となる。学生指導については、とくに履修単位が15単位未満の学生に対するきめ細かい指導と留年生の減少のための履修指導の強化が課題である。入試については、入試の多様化、受験者数の減少及び学習教科目の変化等、現代の状況に対応した入試方法の改善が求められる。

4 その他特記事項

平成15年度「特色ある大学教育支援プログラム」に「幅広い教育課程と少人数演習による専門教育」の取組みを応募した。学内ヒアリングの対象には選定されなかったが、学類教育の総括と今後の展望を明らかにする上で貴重な基礎資料を得ることができた。